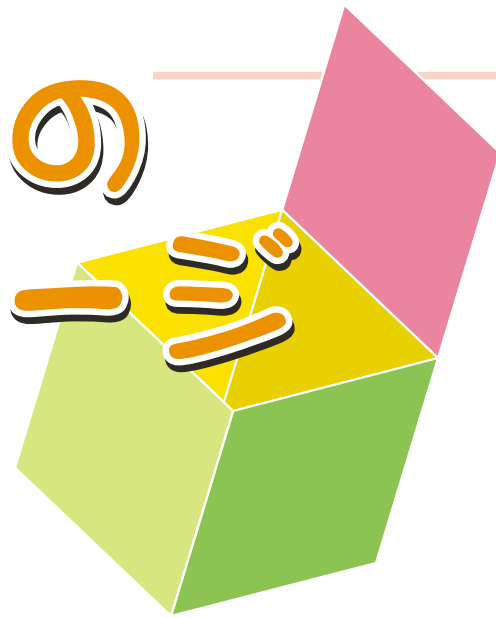


GALLERY ギャラリー



「風景」切り絵
小林 敏子さん(高倉町田井)



「阿弥陀如来」仏画
三村 岩雄さん(川端町)



「大根」油絵
江草 昌平さん(落合町阿部)



「コトコ馬」わら細工
湯浅 茉実さん(有漢東小5)



「佛心」書道

日野 教圓さん(備中町西山)



「港の風景」水彩画
川上 伯夫さん(成羽町上日名)

作品の募集について

- 【文芸】短歌、俳句、川柳など
 - 【作品】絵画、工芸品、まちの風景写真など
 - 自作の未発表作品で、一人一作品とします。
 - ギャラリーの作品については、その写真をお送りください。
(撮影が困難な場合は、ご連絡ください)
 - 住所・氏名・電話番号・作品の場合はタイトルを明記のうえ、お送りください。
- ※締め切り 掲載号の前月の末日(必着)

- 問い合わせ・送り先
〒716-8501 (住所不要)
高梁市役所企画課公聴広報係 (☎0210)
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp
- ※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
※提供いただいた写真等は返却できません。

市民へ

文芸たかはし

短歌

(敬称略)

針の耳に糸が通せない目のうすき年老いた昔の母を思いだす

赤木 文子 (備中町西山)

こだまする渡り拍子の鉦の音と晩秋の空に映える備中路

井上 明彦 (備中町平川)

共に立つ松山城の天守閣寄り添う笑顔忘れ得ぬ人

梅野 八郎 (松山)

万葉も古今も識らず詠む短歌拙なけれども吾が心なり

小野はる恵 (原田南町)

新築の家のぬくもり兄知らず施設の窓辺で萩の咲く見ゆ

芝吹美代子 (落合町阿部)

コスモスと孔雀草の白ピンク健気に咲けり手折る手ためらう

西井百合子 (横町)

四季折りに花に紅葉に雨風に旅して詩におくのはそ道

原田 由き (高倉町飯部)

菊咲きて足先冷ゆる夕べにはおでんコトコト煮ゆる音する

平 初音 (高倉町田井)

ピオーネの黒き実押せばしとりと指に伝はる秋の感触

榊上 秀雄 (備中町西山)

紅葉と緑おりなし光ゆれデイサービスに心なごみぬ

森崎 道子 (宇治町宇治)

俳句

さまざまな虫の音楽しむ夜長かな 平松 幾代 (長寿園内)

草野菊ぞぞろ歩きに目を引かれ 藤井タツ子 (備中町西山)

石垣の紅葉美し山城は 藤野 静夫

(大阪府 備中高梁会会員)

若き日夫が陸士官を志し終戦直前の厳しい訓練に耐えた飛行基地を訪ねて

太刀洗勇躍出征いとひ秋 三村 節子 (伊賀町)

徒歩くや風におどるは秋桜花 結城 成子 (宇治町宇治)

地名をよるし



二十五 布寄

「布寄」は、成羽町にある行政区の地名(旧大字地名)で、成羽町左岸の標高三七〇m×五〇〇mの吉備高原上に位置する地域であります。北には宇治町穴田や、成羽町中野があり、成羽川の支流坂本川を隔てて備中町東油野が、西の成羽川の対岸には備中町平川、南に備中町布賀や布施があります。

「布寄」付近は吉備高原が侵食された小起伏面が広く発達していて、日本における準平原や侵食起伏面の地形を研究する上で、代表的な地域の一つなのです。中新世の末期に形成されたともいわれる高原面が破壊されて、吉備高原を数百メートル、V字状に深く削り、穿入曲流(山地が峡谷をなして蛇行していること)の峡谷地形が西側と南側に見られ、坂本川や成羽川は激しい下刻作用を見せていて、西の岸は急崖の谷壁となっています。

また、「布寄」帯には「中村台」といわれる石灰岩の台地が広がっていて、陥没したドリーネ(すり鉢状の溶岩凹地)群が連なり(ウバーレ)、深い谷状の凹地をつくっていてカルデラ地帯の特色を示しています。

「布寄」は穴田郷に属し、布寄村でした。毛利の支配後、慶長五年(一六〇〇)から元和三年(一六一七)まで幕府領(天領)でした。同年池田長幸が入封して松山藩領となり、続いて水谷勝隆が入封した寛永一十九年(一六四二)から元禄六年(一六九三)が松山藩領(成羽町史)となっていました。「正保郷帳」(正保二・三年一六四五・四六年頃)には布寄村四一七石余・幕府領とあり、枝村に木ノ村・田原村・蛇山村(阿部山)など六カ村があげられています。水谷が断絶する元禄六年から慶応四年(一八六八)まで、再び天領(幕府領)となっています。天保五年(一八三四)頃の「天保郷帳」には高五三四石余と記録されています。

布寄に残る布寄城(中村城)址には、布寄左衛門尉の墓碑が建ち碑の裏に「天正三乙亥年二月十五日」台座に「備後尾道、石工田中平兵衛作」と刻まれている。布寄氏は天正三年(一五七五)の備中兵乱の時、三村方に属し松山城で討死した(「備中兵乱記」と伝えられています。また、西布寄には布寄城主一門の墓と伝えられる宝篋印塔があり、正平一七年(一三六三)の銘が刻まれている、市の重要文化財に指定されています。そのほか多くの五輪塔も残っていて、古い歴史をしのばせてくれます。

布寄神社は、茅ノ輪くぐりの行事や渡り拍子が伝えられ、以前はかたりにぎやかに祭りが行われた神社なのです。また、木ノ村にある国司神社西には石灰岩の侵食により出来た夫婦岩が岩壁に立ち、名所となっています。「布寄」は江戸時代川上郡布寄村、明治二二年長地村など四か村が合併して中村となり大字布寄、そして昭和三〇年成羽町布寄となった地域なのです。

「布寄」という地名は、難しい地名の一つで数少ない地名なのです。地名は、長い間使われているうちに、当て字に変わったり、音があつたものへ後から文字を当てたものなど分からない場合がよくあります。

「布寄」の地名由来を考えると、①布寄左衛門尉という人名説 ②「布寄」や「布賀」の「布」は、節(づ)から「高い所」とか「盛り上がった所」という意味で用いられ、それに「寄」がついたという節の二つが考えられますが、よく分かっています。

(文・松前俊洋さん)



「西布寄」を望む